

1. 件名：福島第一原子力発電所における循環注水冷却・滞留水等に係る定例会
2. 日時：令和2年9月11日（金）10時00分～11時30分
3. 場所：原子力規制庁 18階会議室
4. 出席者

原子力規制庁

原子力規制部

東京電力福島第一原子力発電所事故対策室

澁谷企画調査官、宇野課長補佐、知見主任安全審査官、松井安全審査官、

伊藤係長、市森係員、長崎技術参与、高木技術参与

福島第一原子力規制事務所

田中原子力運転検査官（テレビ会議システムによる出席）

東京電力ホールディングス株式会社 福島第一廃炉推進カンパニー

福島第一原子力発電所 担当7名（テレビ会議システムによる出席）

5. 要旨

- 東京電力ホールディングス株式会社から、資料に基づき、以下の説明があった。

- 3号機燃料取扱設備マストケーブル損傷事象について

- ✓ 事象の概要

- ◇ 9月2日に3号機使用済燃料プール内の燃料を移動中にマストケーブルをプール上の部材に引っ掛ける事象が発生。引っ掛かりを解消後、把持していた燃料を予定していた位置まで移動して着座させた。

- ◇ その後、つかみ具の開閉状態及び着座状態を表示する信号の異常を確認したため、現場調査を行ったところ、当該信号のケーブルが損傷していることを確認。

- ◇ 操作員のカメラ画面の監視不足が、本事象の発生原因と考えている。

- ✓ ケーブルの損傷状況

- ◇ 外観確認の結果、ケーブルが被覆ごと損傷していることを確認。なお、損傷箇所は、燃料着座時に水没する位置にある。

- ◇ 抵抗測定の結果、ケーブル芯線20本のうち16本の断線を確認。

- ✓ 復旧の方策

- ◇ 現場でのケーブル修理は困難であるため、予備品のケーブルに交換して復旧する。

- ◇ ケーブルの取付け状態から、交換には作動流体（水グリコール）用ホース及びつかみ具回転用モーターの取り外し作業が必要となり、約2週間の作業期間を要する。

- 3号機燃料取扱設備クレーン主巻水圧ホース被覆損傷について

- ✓ 9月9日にクレーン月例点検に合わせて点検を実施したところ、クレーン主巻の水圧ホース近傍に滴下痕があり、ホースの被覆が損傷していることを確認。

- ✓ 水圧ホース内部のチューブの亀裂等により作動流体が被覆内に蓄積し、内圧が上昇したことが原因で被覆が破損したと推測。

- ✓ 今後の対応として、ホース交換の要否及び修理工程を検討中。なお、ホースの予備品は準備済み。

- 多核種除去設備等処理水（以下「ALPS処理済水」という。）の二次処理の性能確認試験について

- ✓ 鋼製タンクに貯留しているALPS処理済水のうち、除去対象核種（62核種）の告示濃度限度比総和が1以上のALPS処理済水を同1未満に低

減するために、二次処理を実施する方針としている。

- ✓ 8月8日に運用タンク貯留分を除く未処理水（S_r処理水）の浄化処理が完了したことから、告示濃度限度比総和が100以上のALPS処理済水のうち約2,000m³を対象として、告示濃度限度比総和が1未満となることの検証や核種分析の手順・プロセスの確認等を目的に、二次処理の性能確認試験を9月15日から10月中旬まで実施予定。
- ✓ 当該試験は、増設ALPS（A系及びB系）を用いて実施し、処理前後の水をサンプリングして、除去対象核種（62核種）、放射性炭素（C-14）及びトリチウムの分析・評価を実施予定。

- 原子力規制庁は、上記説明を受けた内容について確認するとともに、
 - 3号機燃料取扱設備に係るトラブルについて、再発防止対策を含めて今後の対応が決まり次第説明すること。また、海外製品である予備品の補充状況について報告すること。
 - ALPS処理済水の二次処理の性能確認試験について、進捗状況を適宜報告すること。等を求めた。

6. その他

資料：

- 3号機燃料取扱機マストケーブル損傷事象について
- 1F-1オペフロダストモニタのBG計数率の測定記録
- 循環注水冷却スケジュール
- 使用済燃料プール対策スケジュール
- 燃料デブリ取り出し準備スケジュール
- 汚染水対策スケジュール
- 水処理設備の運転状況，運転計画（2020年9月4日～2020年9月17日）
- 福島第一原子力発電所の滞留水の水位について（2020年9月4日～2020年9月10日）
- 福島第一原子力発電所 多核種除去設備等処理水の二次処理の性能確認試験について